

日文研 学術 講演会

2017年9月26日[火] 14:00-16:30(開場13:15)
国際日本文化研究センター内講堂

受講料

無料

定員

500名(抽選)

内藤湖南、
応仁の乱を論じる

呉座 勇一(日文研助教)

柳田國男と日本国憲法
—主権者教育としての柳田民俗学—

大塚 英志(日文研教授)

日文研学術講演会

Nichibunken Public Lectures

挨拶

稲賀 繁美 国際日本文化研究センター 副所長

司会

坪井 秀人 国際日本文化研究センター 教授

講演



呉座 勇一 国際日本文化研究センター 助教

「内藤湖南、応仁の乱を論じる」

戦前、東洋史家の内藤湖南は、応仁の乱を日本史上最大の事件と位置づけました。応仁の乱以後の約100年間は「日本全体の身代の入れ替わり」であると主張したのです。しかし、応仁の乱で既存の秩序が完全に崩壊したというのは本当でしょうか。内藤はいくつかの根拠を掲げていますが、細かく検討してみると必ずしも説得力のあるものではありません。内藤はなぜ上記のような過激な説を唱えたのでしょうか？この講演では、応仁の乱そのものを細かくみていくのではなく、乱の様相を通して内藤の議論の是非を再検討するとともに、内藤説の意図や背景を探ります。



大塚 英志 国際日本文化研究センター 教授

「柳田國男と日本国憲法

—主権者教育としての柳田民俗学—

柳田國男は昭和35年、86歳の時、「最終講演」とされる席で、呻くがごとく「憲法の芽を生さなければいけない」と語った。何故、柳田は最後に「日本国憲法」を語ろうとしたのか。柳田が大正デモクラシー以降、くりかえし唱えたのは「民主主義」を可能にする「選挙民」育成のための「民俗学」であった。「妖怪の民俗学」ではなく、主権者教育のツールとして設計された柳田の学問の本質について今こそ考え、受け止めてみようではないか。

ACCESS

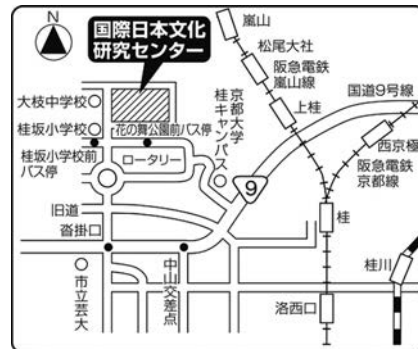
阪急桂駅～日文研間の無料バスサービス

往路(日文研行): 阪急桂駅東口バスターミナル南側「Y!mobile」前より 12:50~13:20の間に5台
復路(阪急桂駅行): 講演会終演後に5台

通常交通手段 桂坂中央行のバスにて「桂坂小学校前」又は「花の舞公園前」下車

- 阪急桂駅西口: 市バス 西5・西6 (約30分)
京阪京都交通バス 20・20B (約20分)
- 阪急洛西口駅: ヤサカバス 1・6 (約20分)
- JR京都駅: 京阪京都交通バス 21・21A・26 (約45分)
- JR桂川駅: ヤサカバス 1・6 (約25分)

お車でのご来場は、近隣への迷惑となるため、固くお断りしております。但し、車椅子を利用されている等、公共交通機関での来場が困難であり、お車でのご来場を希望される場合は、お申し込みの際にその旨をお申し出いただき、必ず事前に許可をお取り願います。



申込方法

- ①催し物名、②代表者氏名(ふりがな)、③郵便番号・住所、④電話番号/FAX番号、⑤同伴者氏名(ふりがな)を明記の上、ハガキ/FAX/E-mail/ウェブフォームにてお申し込みください。 ※1申込につき2名まで受付。

8月17日(木)必着

※3名以上のお申し込みは、無効とさせていただきますのでご了承下さい。
※抽選結果は、当落を問わず9月8日頃にお知らせ致します。なお、定員に達しない場合は期日以後もお申し込みを受け付けます。



お申込み・お問合せ

国際日本文化研究センター研究協力課
〒610-1192 京都市西京区御陵大枝山町3-2
TEL: 075(335)2078 FAX: 075(335)2092
E-mail: koenkai@nichibun.ac.jp

Webform: https://webform.nichibun.ac.jp/ja/2017_09_26

※お申し込みの為に預かりした個人情報、大学共同利用機関法人人間文化研究機構が主催する催し物のご案内のみに使用します。

参加申込書

ふりがな		ふりがな	
代表者氏名		同伴者氏名	
住所	〒 -		
電話番号		E-mail	